

7/23～25「先端研院生プロジェクト 2022 スタートアップ報告会」資料

院生プロジェクト「incurable 研究会」作成

■研究会の概要

この研究会では、慢性の病や障害が、治療を目的とする医療のみでなく、生活・生存のための医療や福祉を必要とすることに着目し、考察をおこなっていきます。とりわけ、人々が、制度の谷間に置かれてしまい、必要な医療・福祉その他のサービスにアクセスできない状態に着目し、特定の病・障害であるという医師の診断を得なければ、医療や福祉制度を利用できないという、病者・障害者と制度のあり方について考察していきます。研究会メンバーには、病者、介助者、医療者といった、当事者や当事者と身近に接している人が多くおり、それぞれの強みで調査を行いながら、研究プロジェクトとしての共同研究を進めていきます。

現在の大きな目標は、インタビュー調査を進め、制度にうまく接続できない状態に置かれた病者・障害者、その家族らには、生存・生活していくためのどのような要素が不足しているのかを聞き取り、その情報を蓄積していくことです。2020年度から、複数のメンバーによるインタビュー調査が進行していますが、今後は、協力いただいた当事者の方の声や、メンバー間での意見交換からフィードバックを得て、どのようなインタビューを行えば、当事者の困難についての声を掬い上げることができるのかという点に主眼を置いていきます。具体的にはインタビューガイドの作成とそのブラッシュアップ、対象とする病や障害の特徴により変更を加える必要がある場合はその作業を行うこと、などです。

また、定期的に勉強会を開催し、文献の講読や、各自の調査・研究の報告などをおこなっていきます。昨年度は定例の勉強会に加え、石巻専修大学の野島那津子先生をお招きし、講演及び、当事者を含む参加者による意見交換を行いました。

■今年度の予定

研究会として、研究助成の申請をおこなっております。助成を得ることができれば、インタビュー調査に関わる費用（主には文字起こし費用）などに今以上に予算を割くことができ、共同研究を大きく前進させることができます。今年度も、複数のメンバーによるインタビュー計画がスタートしています。助成を得られなかった場合でも、インタビュー調査を行い、インタビューガイドを精練していきます。

勉強会での講読文献は、『新版 現代医療の社会学』『病と健康をめぐるせめぎあい』が候補に上がっており、前者から講読をはじめることになっています。

●ご連絡は中井まで→gr0476ex@ed.ritsumei.ac.jp